附中×GIGA のあゆみ 01 2021. 4~6

始動**U** 附中×GIGA

担当 草場 博文

【始動期】2021. 4~2021.6

実践目標:まず使う。できそうなことをやってみる。そして課題をあらいだす。

時期	TOPIC
4月6日 (火)	Chromebook との対面
一人一台端末研修	昨年度より準備してきた GIGA スクール構想。
	ようやく一人一台端末に触れることができました。
	「 Chromebook って Windows と違うの?」
	ここから先生方の学びがスタートしました。
4月7日 (水) ~	ICT 推進企画会議スタート
	リコージャパン、大分大学学術情報拠点(情報基盤センター)の助言をいただき
	ながら、「附中×GIGA」をどのように推進していけばよいかを協議しました。
	システム管理用ソフト…InterCLASS Console Support v2.0
	InterCLASS Filtering Service v2.1
	【主な業務内容】
	システム構築 … classroomの設定, Gsuite for Educationの動作試験
	デジタル教科書の初期設定など
	運用方法の検討… 使用に関する大まかな取り決めの確認
	生徒使用規定の構築,導入準備など
	「何ができるのか?」「どのように使うか?」「どんな場面で使うとよいか?」
	アイデアを出し合いながら協議を重ねました。
	※別紙資料
	01 Chromebook の主な機能の紹介、ログイン方法について
	02 運営委員会提案資料

4月15日(木)~

試験利用開始

当初の予定より4日早く実施できました。これも先生方のご協力のおかげです。 各学年の 情報担当者研修を行い、特定の教科を中心に試験運用を始めました。 最初 Chromebook の仕組みや cloud の考え方など基本的なことを学習したあと、 実際にログインをさせ様々な作業を自由にさせてみました。初めて扱う端末に対 して、興味深々な生徒たちから新しい学習方法を手にした喜び、これからの授業 に対する期待を感じました。

そして、フィルタリングの穴やWi-Fiの不具合など多くの課題が見えてきました。 また、エンドユーザーとしてふさわしい態度や情報モラル教育の重要性をあらた めて実感しました。「生徒と共に創る授業」に向けてどのような準備が必要か少し ずつ見えてきた気がしました。





デジタル教科書を手に取る生徒たち

検索画面を見ながら、話し合う生徒たち ホワイトボードとの併用

そして、フィルタリングの穴やWi-Fiの不具合など多くの課題が見えてきました。 せっかく準備したのにうまくいかなかったなどの声も聴くことがありました。 また、エンドユーザーとしてふさわしい態度や情報モラル教育の重要性をあらた めて実感しました。授業中に違うサイトを閲覧したり、手遊びの道具になってし まったり、残念な書き込みをしてしまったりということもありました。

「生徒と共に創る授業」に向けて、どのような準備が必要なのか。失敗を重ねる 中で少しずつ見えてきた気がしました。

4月21日(水)

校内授業研(3年理科 石松一彦 教諭)

授業中のアクシデント を想定しながらの授業 準備は大変です。

しかし Chromebook の 可能性を示唆する提案 授業を実践していただ きました。





また、事後研において Chromebook を活用し、Jamboard でグループ協議を行うなどこれまでの教育財産を ICT に置き換える挑戦を始めました。

※詳細は、本校 HP>教育研究>研究授業に掲載しています。

5月12日(水)~

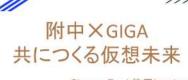
運用開始

試行を受け、生徒が使う目的やルールを明確にすることができたので全校朝会を開き、生徒に Chromebook の使用について説明をしました。ここでは、活用の心構え、使用上の注意、クラウドサービス、付属品の扱い等について話をしました。

なお保護者に直接ガイダンスできていない ため持ち帰りについては当面先送りするこ とにしました。

※別紙資料

- 03 説明スライド
- 04 保護者配付文書
- 05 生徒配付資料



ChromeBook使用について 生雄説明資料 2021. 5. 12

朝登校時	キャビネットからCBをとります。 ログイン (キャビネットの解鍵)	
朝自習	AIドリルに取り組みます。	
朝の会	連絡事項の確認をします。 (classroom > 学級活動または学年 集会)	
1~6限	学習道具としていつでも使えるように準備しておきます。 *活用については授業者の指示 <u>にしたがい</u> ます。勝手な操作は、手 遊びと同じとみなされ指導を受けます。	
昼休み	原則活用を控えます。 *学習や生徒会活動など必要に応じて利用する場合があります。 (許可を申し出ます)	
帰りの会後	キャビネットにCBを返却し、充電コードを差します。 (左側の コードを使用) (キャビネットの施設)	
放禪後	*専門委員会や部活動で使用する場合は、担任に許可を申し出ます。 *自宅に持ち帰る場合も担任に許可を申し出ます。 (現在は禁止)	
自宇	自宅のWi-Fiに接続し、課題等を済ませます。	





グループ活動をする生徒たち







検索やデジタル教科書を用いて学習内容を振り返る生徒たち





チャットを使って自分の意見を発表する生徒たち 板書を記録する生徒たち 少しずつですが、確実に学習ツールとしての意識が芽生え始めています。 また Wi-Fi の不具合や機器のトラブルにも上手く対応でき始めています。

5月

生徒による集会準備が可能に

感染症以前は、生徒会執行部が中心になって全校集会等の準備をしていました。昨年度、オンライン集会を始めたとき教職員の公務用パソコンを使用していたため教師が準備をせざるを得ない状況になってしまい、結果として生徒の活動を 取り上げる形になっていました。各学級にコードやアダプターなどの備品を整備し、生徒のChromebookを活用することで生徒が自分たちで準備をする環境が整いました。市総体激励会なども生徒会を中心に準備することができました。



※別紙資料

06 接続説明資料



6月8日(火)

校内授業研 (2年英語 三村洋平 教諭)

これまで行ってきた授業を ICT に置き換えるには、「何を どう置き換えればよいか」知恵を出し合う授業研になり ました。

また、Chromebookを用いた事後研も2回目となり1回目

に比べて密度の濃い研修

になりました。



07 附中×GIGA

教職員意識調査









※詳細は、本校 HP>教育研究>研究授業に掲載しています。

6月9日(水)

「すららドリル」ガイダンス





個別最適化学習の実践・検証をめざしてすららネットと連携を持つことになりました。5月26日(水)に教職員対象とした事前研修を行い、本日各学年ごとに学年集会を実施しました。この「すららドリル」を効果的に活用することで生徒の個に応じた学習はもちろん、職員の働き方改革につなげることができればよいと考えています。

その他

トラブルシューティング

トラブルシューティンケー

教師の抱える課題を共有して今私 たちにできる最善の方法を検討し ています。

T.	Problem (銀リ)。	Solution (解決案)。
Α.,	Wi-fi のつながりが悪い ②u	リコーさんに CB の機定変更を依頼しています。
Aφ	Wi-fi のつながりが無い ③=	今のとう時でいるありません。立ち上げてアアドルスを取得するのに2分から8分 以上かかっているようです。生態には投資制度と同時に立ち上げておくように落め、 ておくのが多いでしょう。10分に一度くい。受難がフンをおしましょう。リース目開かて おれば開発な働いているようですから、現在開発基盤センターにて設定依頼として います。
4	ソフトやアプリを入れたい。	情報基盤センターに申請を出すことになります。。 その場合は、セキュリティーに係ることインストールしたことによるリスク等を各自で製べておいてください。教材を各数料で管理するのと基本は変わりません。。
	CB の不具合が多くない か+	不異合の大多数はヒューマンエラーによるものです。手順を確認しましょう。そ
*	Jonboard の使い方?。 Form の使い方がわから ない。 GoogleWorkspace っ て?。	YouTubeは素敵な何等業です。私たちICT担当も見ています。 これが新しい学び方のひとつです。
+	授業でどのように活用するか。	とりあえず失敗してもよいのでやってみることです。 活用をしている売生の意味から入っても良いと思います。。 例えば「長れないもは操作は間倒からへので投資で扱う学習内容を 15 分ぐらいのものに設定するとよいです。。 あと投資の中で普段行っていることを CB で菓き換えることができないかを与えると作業がしてマッド・失発を一般ないのの質問、長が見い事にかか。
	CB の取り出しに時間が かかる。	全教軽合が終わりましたのでキャビネットの管理を各字年でお願いします。。 担任は自分の学術の方を管理して代さい。 報担任かサイビネットにあからることを確認して解説。 博り担任がキャビネットにあるCBの合数を確認して確認。 日中は、成の中で管理をさてくない。

【ICT推進担当】

本格実施からちょうど一か月が経ちました。まだまだ試行錯誤しながらの運用ですが、確実に前にすすんでいる実感があります。課題や成果を共有しながら、より良い方法を模索していきましょう。